

建築学科申請中 来春土木建築館完成



写真は建設中の土木・建築館

以前より噂されていた、中であることが学校当局より度々より募集出来るよう申請。募集人員予定は他科と等しく八十名で、その内来年度に限り二年生を各科より募集する模様である。これによつて我が愛工大も近代的な美的様式への研究を進められる事になった。その為、現在建設されている施設の中に、アトリエなど今までのないものも作られ、目新しいものになりそうである。

昭和四十一年度卒業生進路状況

今年つり昭和四十一年三月の卒業生も大半は十二年間の学校生活に終止符を打ち美事に果立って行った。工業課程(電気科・電子科・機械科)の卒業生七十七名中、就職希望者六十八名、その他は大学或いは各種学校に進学。

就職希望者は例年と同様全員、完全就職が出来た。一方、普通課程に於いては二八名中、一五九名が見事現役で大学に進学。

今年も例年と同じく全員就職出来、誠に御慶びであります。

今年も例年と同じく全員就職出来、誠に御慶びであります。

若杉和彦君(愛工大三年)大奮闘



フェンシング

青年 剣士

若杉和彦君(愛工大三年)大奮闘

去る七月六日、カナダのモントリオールに於いて開催されたフェンシング世界選手権大会に日本代表の一員として本大学の経営工学科三年の若杉和彦君が参加した。

この土木、建築棟の完成を契機として諸々の問題を解決すると共に、名実共講義が始められる予定である。来年度より土木工学

卒業生諸君

「初一念を貫き通せ！」

名古屋電気工業高校 就職指導部長 三矢幹夫



「就職希望者が全員、就職できた」と一口に云ってしまえば極めて簡単ではあるが、このような結果を見ることは容易な業ではないと私はしみじみ感じた。

いわゆる有名会社に、願書を出す者が多かった。しかし各事業所の採用は自ら体験した。

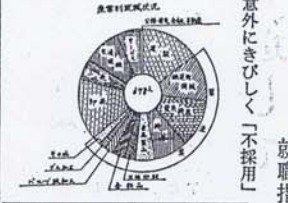
生徒諸君も採用される「希望と夢」をもって入社した。新しい対人関係の行けば、大変なことだ。

生に眼したことは、全国の高専卒業生で就職した者の共通した考えだと思ふ。

入社し、そうして入社当時の「夢」が希望も消えてしまった。若し、かりに果立って行ったならば、よく育んで立派な社会人にしてやうして下さい。

心から御願いたします。なお最後にになりましたが普通課程卒業生の主な大学は次に示す通り。

- 愛工大、名大、名工大、日大、法政大、中大、関学大、青山大、東海大、独協大、東電大、京産大、立正大、農大、麻生獣医大、日電工大、愛学大、名商大、愛大、中工大、名商大、名城大、東邦大...



自分の力量、特性等を考慮して適切な事務所に願書を出すようにした。

中々馴れない仕事を、五時まで或いはそれ以降迄も勤務せねばならぬ等々...

学問長、後藤野二先生の「初心、忘るべからず」この教えを今、もう一度かみしめてほしい。

「初一念を貫き通せ」とは人間として尊いことである。また、大切なことである。このことは「じゃ、一体どうすれば成就出来るか？」答えを問うまでもない。

「初一念を貫き通せ」とは人間として尊いことである。また、大切なことである。このことは「じゃ、一体どうすれば成就出来るか？」答えを問うまでもない。

「初一念を貫き通せ」とは人間として尊いことである。また、大切なことである。このことは「じゃ、一体どうすれば成就出来るか？」答えを問うまでもない。

同窓会というものはまことに楽しいものであります。これからは五年毎の同窓会は続けられて行くこととありましよう。(41、5月記)

25期同窓会の記

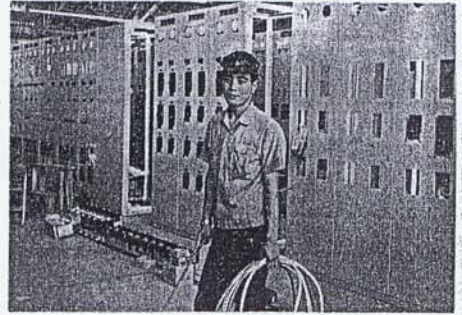
田中 醇 (大正15年卒)

「二五期同窓会」というのは大正十五年三月名古屋電気学校を卒業した同窓会が今年で満四十年になります。当時同窓生は一八八名であったが先般や住所不明で現在は七〇名となりました。私は五年毎に恩師を招いて盛大な同窓会をやっています。今年は四十年記念として賀城園で開催しました。一口に同窓会といっても北は仙台南は熊本まで散り散りになっているのですから一堂に会することはむづかしいことです。それでも半数の者が集まって呉れました。恩師は今尚母校に居られる岩井先生と他校で教鞭をとっておられる小和岡先生のお二人に参加して頂いたのでうれしかったです。この外和田信次先生、佐野作一先生、山中新造先生はご都合でおいで願えなかったが恩師は僅か五名という淋しさであります。今年同窓会は非常に意義深いものがあつた、というのには学窓を出てから四十年の歳月が過ぎて、停年制のある職場の者は殆どが第一線から退いて次の職場に変わつた。ことに四十年は長かつた。だから学生時代のこと、仕事のこと、職場のこと、家庭のこと等々、四十年を踏み越えて来た人生を語るには同窓会での短い時間ではとても足りなかつた、いつまでも話の種は尽きないのです。今は紅蓮の少年であつた同窓生も白髪となり長い間の苦闘が皆の皺の中に刻み込まれていて、しかし、会合は昔の同窓時代によみがえり、終始和気霽霽の中に進められて楽しい半日の時を過しませう。



愛知電機製作所同窓会

名電会だより



昭和三十五年より毎年催している新年宴会を今年も、福田常務去る一月九日を始め、多忙にもかかわらず支部同窓会員も大部分が参加しました。最初に福田常務の挨拶が今池の現況報告、料亭市松に於いて話され、なごやかな会を催しました。母校学園理事長であり愛知工業大学々長であり後藤藤二先生は世界卓球選手権の日本選手団々長などとの内外を問わず活躍されていることを会員一同喜んで居ります。我々一同も学長先生に負けぬように毎日々仕事に励んで居ります。

出席、同席、今後は健康に留意せられ、ますます御活躍せられんことを我々一同、お祈り致します。

〔写真上〕水野雅夫氏
〔写真下〕岩井先生

後藤学長御還歴に
同窓会有志により記念品贈呈

後藤学長先生は昨年十月十三日めでたく御還歴をお迎えになりました。同窓会有志の方々とてお祝いのし、利倉郡青田伯の富岳の掛軸を贈りました。

致しております。
幹事 水野雅夫
(三十七年高校卒)



力強い母校の躍進
三十周年を迎えた四十七期同窓会

去る五月二十八日午前十一時より市内中区岡井町料亭、松月、於て、母校を創立つて三十年とあつて特別幹事のお骨り四十五名もの参加を得、盛大に行なわれました。

学校からは後藤学長の参ことなく次から次へつづき予定が急用で出られず若井先生が同席、会は寺尾先生の司会で始まり毎年クラブ活動、夜遅くまで勉強した寄宿舎生活、当時のさびしかった教育制度、かつての今は亡き十二名の友の追悼……

岩井先生からの学園の近況報告、〇・Bの中には二十数年振りの再会、非常になつかしがつて居られた人もあつた。

石野清氏の音頭により乾杯をした後、各メンバーの近況、中にはお孫さんまである方大部分の方は息子さんおられ大学又は高校に通つておられるとの話題はつきる

先生挨拶に關し、東陽館に集合した事があった。その席で盛んに討論を交へて居る時、その隣室には警察の人と校長後藤先生が来て聞いておられた。

「学校の生徒は我子同然である」と、私に話された。来年四月には是間生も募集せられるとのこと、控室で先生の話を聴き、懐かしさで涙が溢れた。

生徒数は激減が近づいて、夜六時より九時までの夜学は人影が次第に減り、開所当時は廊下迄、机を並べたものが今は教室にさえ空が見えて来た。

一年が過ぎ、二〇〇名が最初の人員の内三十八名が名古屋電氣学校一回卒業生となつて生れ出た。

去る八月十三日、長野県に於て催されたグライダ―指導者講習会で中日新聞航空部整備士として、ごまどり、号に搭乗シグライダ―受講者の曳航中の福原邦彦君(昭和三十三年三月電氣科卒)は突発的の墜落事故により殉職されました。謹んで哀悼の意を表します。

一、重見末次郎、滝沢兼豊、寺尾博之、長谷部勇、服部良夫、樋口富男、平重基、増田登志男、松水一、松岡政吉、水野義正、村尾久男、村瀬忠男、村松寛男、山守幸雄、吉田一孝、渡辺久雄、八木正男各氏の皆さんでした。

福原邦彦君(33年卒)ごまどりの曳航中殉職

去る八月十三日、長野県に於て催されたグライダ―指導者講習会で中日新聞航空部整備士として、ごまどり、号に搭乗シグライダ―受講者の曳航中の福原邦彦君(昭和三十三年三月電氣科卒)は突発的の墜落事故により殉職されました。謹んで哀悼の意を表します。



創立五十五年を迎え、今日に於いては、これを一軒の家にとするならば、漸く一つの家の一室の形が出来上つたといえよう。

然し、その一軒の家を築くまでに、鉄の心とあらゆる人材、資材が要求される。

今刊からは、此々に読者が電学園発展史の一なるものを感じて頂きたい。



石油ランプより
炭素線球へ

明治より大正に移る頃、市内の主要な四辻には、アーク灯が点灯せられて、一夜その下で傘を廻して、手を振ったりすると、縞になつて、手の影がみえらう。

どういふ訳か、その時、遅からず電氣の時代がやってくる。

停所近くでは運転手がブレーキの把手を必死に廻わす有様であつた。

一方郊外電車の開通も活発化され、千早八事間、熱田一新舞子、瀬戸堀川、押切大山等電氣時代に向つて進んで来た。

しかし、その頃、遅からず電氣の時代がやってくる。

矢場町に
産声誕生

創立当初を顧みて
第一回卒業生 伊藤鎮

が、喜んだのも無理からぬ事と思われ。明治四十五年は大正と改元せられ、その九月矢場所開所式が挙行された。

矢場所電停近く、一〇〇米道路の中央から南寄りの所が学舎の位置である。生徒二〇〇人、五〇才に講習所の授業内容も少しづつ理解出来るようになつた。

学舎が医院の跡であつた。学舎の英語に始まつた。中央に火鉢があり、老生はその周囲に集まつて、キセルでタバコを吹かして居る。その後、角力をして居る年少組。

講習所の授業内容も少しづつ理解出来るようになつた。

花見先生の英語に始まつて、藤田先生の製図、林先生の配電線、支線支柱より木材防蝕法、白井先生の電話、貝塚先生(後の高岳製

筆者紹介

伊藤鎮氏
大正二年九月二十三日
名古屋電氣学校 東京工科大学 専門部 修了 明電社に入社、昭和二十六年三月、名古屋電氣学園に奉職、現愛知工業大学工学部電氣科講師
現住所
市内北区柳原町三一九

偶然、後藤家墓所に出た時、その後藤家の墓所内に名古屋電氣学校関係物故者墓誌云々の墓石が目にとまつて、思わず息を呑んだ事がある。

校長、後藤先生の暖かい心と広い心に胸を打たれた感がある。

卒業式にひき続いての記念撮影、その末席に加えられた私はとにかく辛いであつた。

時に大正三年九月二十三日のことであつた。

市内では前部に綱をつけて、たチンチン電車が走つて、

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

（創立者故後藤三郎先生）

頃私にはまだ不思議に思はれた。多くの青年に、その年令はささまで、あは大学、或いは高等工業に行く以外、勉学する方法がなかつた。

電氣講習所開設
明治四十五年七月、後藤三郎氏、現学長の敬父により電氣講習所開設が発表せられ、多くの青少年

